



茶

翌年の収量品質は着葉量を
十分確保することと丁寧な
整枝作業で決まります



農業経営支援課
山本 尚充

《秋整枝》

本年7月8月は記録的な猛暑に加え、西日本を中心とした豪雨、度重なる台風の影響、逆走台風など異例づくしの気象となりました。管内の降水量を見ると、7月の月間降水量は292・8mm（過去3年平均193mm）、8月の月間降水量は194mm（過去3年平均188・5mm）と多いものの、7月の中旬から下旬にほとんど降雨がなく、干ばつ状態となりました。この影響で、8月に入りカンザワハダニが一部で多発しました。三番茶芽の生育が劣った茶園では、無理な摘採（時期）は避け、秋整枝時期まで待って（平均気温18℃〜19℃の頃）摘採しましょう。また、平均気温20℃以上が続く日に秋整枝を実施する場合にはやや浅めに摘採し、改めて本整枝を次の

時期と深さを参考に実施しましょう。

《時期》

越冬芽が萌芽開葉せずに越冬芽に十分栄養が供給できる時期が最適です。秋芽の頂芽が切除された瞬間から来年の一番茶となるべき側芽に栄養が供給され始め、11月頃まで続き、幼葉が形成されます。一般には平均気温18〜19℃になった時期が整枝適期です。（幼木・更新園は注意）

秋整枝時期が早ければ、①来年一番茶が早まる。②整枝から休眠までの期間が取れるため、越冬芽のアミノ酸含有率が高まり翌年一番茶に好影響となります。ただし、早すぎは再萌芽し品質低下・霜にあたりやすくなるので注意が必要です。

《深さ》

最終芽（三番茶芽）の2〜3枚残した位置で葉層8cm以上確保します。最終摘採面（二番茶後整せん枝位置）より5〜6cm上で整枝（一般的）

深く整枝↓芽数増える（芽数型） ↓最終芽が生育良好な園
浅く整枝↓芽数減る（芽重型） ↓最終芽が生育不良な園（病害虫被害）

若い樹や更新園等の生育旺盛な茶園（長く伸びた茶園）では、秋整枝前に仮整枝を行い、秋整枝面の葉焼けを防止する事が重要です。日差しが強い日は避け、機械の刃回転は早く進む速度は、ゆっくり丁寧にいきましょう！